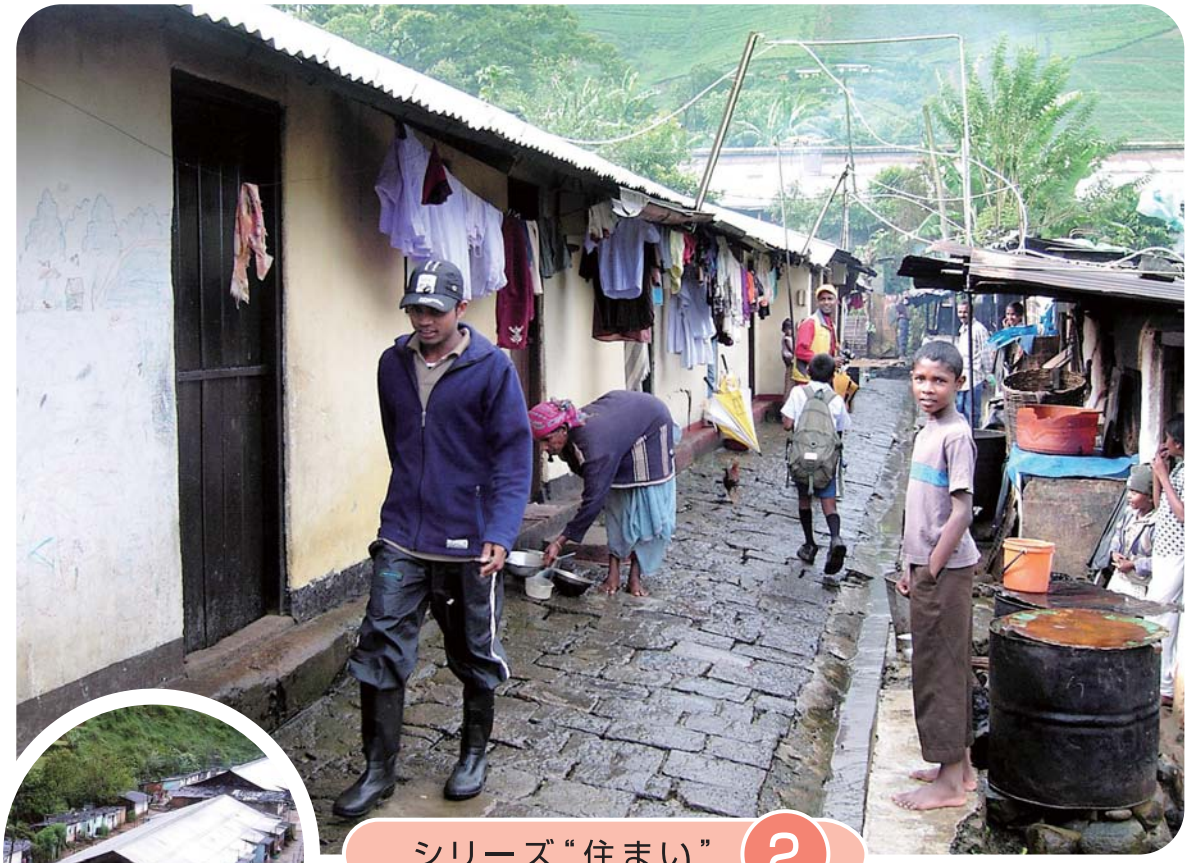
チャイルド・ファンド・ジャパンだより
[スマイルズ] 2011年11月NO.25

SMILES

http://www.childfund.or.jp



ラインハウス全景

シリーズ“住まい” 2

長屋暮らし

スリランカの紅茶農園で働く家族はラインハウスと呼ばれる長屋に暮らしています。
路地を挟んで左側が居室、右側が台所になっています。
朝、学校へ行く子どもたち、紅茶農園に働きに行く人々で路地はにぎわいます。
この地域は高地（海抜1,800～2,000m）にあるので、
朝晩は気温が10度以下に下がることもあります。

写真：センター名　ティープランテーションエリア　（ヌワラエリヤ）

ChildFund Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、
アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、
家族と地域の自立を目指した活動をしています。

特集

～ スポンサーシップ・プログラムを支える人々 ～

その2 スポンサー

特集

～ スポンサーシップ・プログラムを支える人々 ～

その2 スポンサー

close up 1 「きっかけは、チャイルドからの手紙でした」

神奈川県にお住いの清水哲さんは、本年9月にスポンサーとしてお申込みくださいました。哲さんがどのようにしてスポンサーになるお気持ちになられたのか、その経緯をうかがいました。

母の想い

哲さんのお母さんの静枝さんは、1993年、新聞の記事でチャイルド・ファンド・ジャパン（当時CCWA国際精神里親運動部）のことを知ってスポンサーになってくださいました。翌年1994年、「センター訪問の旅」※に参加すれば支援しているチャイルドに会えることが分かり、静枝さんは参加費用を支援金とした方が良いのでは、と悩みましたが、思い切ってフィリピンに行ってみることにしました。フィリピンで、それまで手紙でやりとりしていたチェルウィナさんや家族に実際に会うことは喜ばしい経験でした。静枝さんは、自分が送った手紙を大切にもっていてくれたことに感動しました。こうしてチェルウィナさんとの出会いは、日本とフィリピンの距離を越えたものとなりました。

※チャイルド・ファンド・ジャパンが企画し、主にスポンサーの方々が参加するフィリピン訪問ツアー。支援するチャイルドと家族と現地で会って交流することもできる。

楽しかったチャイルドとの交流を話す静枝さん。

ピアノの上の写真

静枝さんは、支援しているチャイルドのプロフィールをご自宅の居間にあるピアノの上におき、毎朝、写真を見るたびに「今日はどうしているかな?元気に暮らしているかな?」と声をかけました。チャイルドのことをいつも身近に感じていたかったからです。チャイルドに送った手紙への返事や、成長記録もとても楽しみにしていました。哲さんは、静枝さんがフィリピンの子どもの支援をしていたことや、ピアノの上においてある子どもの写真が、支援しているチャイルドであることは知っていましたが、興味をもったり、支援について特に考えることはありませんでした。

（左）ピアノの上におかれていた、静枝さんの最初のチャイルド、チェルウィナさんのプロフィール　（右）チェルウィナさんの小学校卒業時の成長記録。小学校1年から卒業まで、ご支援いただきました。

病を得て

今年の夏、静枝さんは思いもかけず病に倒れました。幸い現在は回復に向かっていますが、それまでは、お住まいの地域のボランティアを組織して、老人ホームやホスピスなどで元気に活動していたのが思うようにならなくなってしまったのです。今まで元気で活動的な母親しか知らなかった哲さんは、これを機会に静枝さんの歩んできた人生について、静枝さんから話を聞きたいと思いました。

チャイルドたちが元気に学校に通い、その家族や地域の生活が向上するためのプログラムを実施できるのは、スポンサーの皆様からのご支援があるからです。本号は、チャイルドをご支援くださるお二人のスポンサーをご紹介します。お二人とも本年になってお申込みくださいましたが、どのようなきっかけで、スポンサーになられたのか、チャイルドへの想いなどをお聞きしました。　（支援者サービスグループ 伊藤久平）

想いを継ぐ

静枝さんは哲さんに、第二次世界大戦末期に一家が空襲で焼け出され、家財を含め一切のものを失ってしまったこと、そして戦後モノがなくて大変な苦労をしたけれども、生きている喜び・楽しみまでは失わなかったこと、そして、フィリピンの子どもたちに出会い、支援できたことの幸せを話しました。哲さんは、これまで静枝さんが支援した全てのチャイルドからの手紙、そしてチャイルド・ファンド・ジャパン事務局からお送りした成長記録や書類などを保管していたことを知りませんでした。静枝さんから、チャイルドからの手紙を見せてもらい、「私のことを忘れずにいつも覚えてくれていてありがとうございます」と書いてきたチャイルドからの感謝や思いやりに満ちた気持ちを知り、自分もご両親の想いを継いでフィリピンの子どもたちを支援していこうと決めました。

これまで支援したチャイルドたちの全てのプロフィールや手紙とともに。右から清水静枝さん、哲さん、静枝さんの夫の久男さん。静枝さんがフィリピンを訪問した後、久男さんもスポンサーとしてチャイルドをご支援くださいました。

close up 2

「カフェから世界の子どもたちへ」

名古屋市でカフェを経営していらっしゃる加藤直人さんは、「日本では衣食住そろって当たり前。でもそれは、世界の常識ではない」との思いから、貧しい子どもたちへの支援を決めました。まずご自分でフィリピンのチャイルドを支援し始めてくださいました。さらに、カフェにいらっしゃるお客さんも参加できる、日本から世界へのつながりを感じるプログラムの企画を考えてくださいました。

チャリティ・ランチ

その第一弾としてこの夏、加藤さんのカフェでは、食事を通して「他人を思いやる気持ちを育む」ことを目的に「子ども向け夏休みチャリティ・ランチ」を実施しました。

（次ページにつづく）

左から、加藤さん、大学生のボランティアのなみさん、カフェ店長の河出さん。カフェでもチャイルドをご支援くださっています。

売上金の一部でフィリピンの子どもたちや地震や津波で被害を受けた東北地方の子どもたちを支援することにしました。また、ランチを食べた子どもたちに応援メッセージを書いてもらうことにしました。

今回は最初ということもあり、参加してくださった子どもたち、親子の数は多くはありませんでした。それでも、参加した方々の中には、お店のスタッフに声をかけてくださった方々、寄付をくださった方もいらして、思いやりの気持ちを強く感じたとのことです。

(上)チャリティ・ランチで寄せられた応援メッセージ
(下)お店の中に設けられた各種団体の紹介やフェアトレード物品販売コーナー。

加藤さんからのメッセージ

加藤さんは「人は、考え、行動し、支え合い、愛し合う力があることを実感しています。そして、相手を思いやる力があれば戦争は起きない」と言います。カフェを通して、今後も世界の現状、フィリピンの子どもたちの生活などを様々な機会を捉えて発信し、一人でも多くの方に理解と行動を呼びかけていこうと考えています。「支援は継続することが大切だと思っています。スポンサーシップ・プログラムは金銭的な支援だけでは伝わらない、気持ちを伝えることができます。これを読んだ皆さんも、そのことをまわりの方々に伝えていただきたい、と思います。」

Q 数多くある子ども支援の団体の中から、なぜチャイルド・ファンド・ジャパンを選ばれたのですか?

「インターネットで、『子ども』、『フィリピン』などで検索してチャイルド・ファンド・ジャパンを見つけました。以前、植林ツアーでフィリピンに行ったことがあるのでフィリピンを支援したかったのです。支援する子どもと手紙でのやりとりができ、それによって支援を実感できるのでは、と思ったのがチャイルド・ファンド・ジャパンを選んだ理由です。」

<チャイルド・ファンド・ジャパンのホームページ> http://www.childfund.or.jp

スポンサーとして、チャイルドの成長を支え、見守ってください!

清水静枝さんがご支援くださったチャイルドの一人に、フィリピンのシェリィという女の子がいます。貧しい家庭で育ったシェリィは、チャイルドになってから大きく変わりました。清水さんの励ましもいただいて、勉強をがんばるようになり、ハイスクール二年生の時には成績優秀者として表彰されました。教室で自分の意見が言えないほど内気だったのに、積極的に授業に参加するようになりました。

シェリィのような希望を持つ子どもを一人でも増やすことがチャイルド・ファンド・ジャパンの願いです。

フィリピン、ネパール、スリランカではスポンサーを待っている子どもたちが今も500名以上います。この子どもたちのスポンサーになってくれる方をお待ちしています。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

清水静枝さんからご支援を受けていたシェリィ

東日本大震災への緊急・復興支援事業

「被災後の子どものこころのケア」のワークショップ

「心の動きが理解できた」「子どもたちと向き合うときの参考になった」「今、まさに宮城に必要なワークショップでした」「一人で悩んでいたことが、お話を聞いてモヤモヤがなくなった」などの声が参加者から聞かれる「被災後の子どものこころのケア」のワークショップ。このワークショップは、「被災後の子どものこころのケアの手引き」の作成に続き、ルーテル学院大学との協働で実施しているものです。臨床心理学科の先生を講師に、回ごとに少しずつ内容は違いますが、大人とは違う子どもの心や体の変化とその対処法などの講義、被災体験を語り合うための少人数のグループタイム、コミュニケーション演習などのプログラムで、これまで宮城県、岩手県で合計6回のワークショップを開催しました。これまでの参加者は、仙台市近郊の幼稚園や保育園の先生、岩手県アウトドア・チャレンジ実行委員会のスタッフやキャンプリーダー、岩手県キャンプ協会のリーダーやリーダー候補生、被災された外国人ママ、ガールスカウト岩手県支部のスタッフ、などです。

怖くて夜にトイレに行けなくなったり、余震を恐れて車の中で寝たいと言ったり、楽しそうに津波ごっこをしたり、子どもはさまざまな反応をします。言葉でうまく表現することのできない子どもたちは、被災後何を感じて過ごしているのでしょうか。そんな子どもたちと接する時、大人は子どもの気持ちをどのように受けとめ、関わっていけばよいのでしょうか、傍で関わる大人の存在はとても重要です。しかし、大人の方も子どもたちの変化に戸惑っているのが現状です。

このワークショップを通して、子どもと身近で関わる大人が、子どものこころに寄り添い、一緒に歩むためのヒントを得られるようにと願っています。そしてそれが子どもたちの笑顔につながるように、これからもワークショップを開催していきます。

（インターン※　西村梨沙）

※チャイルド・ファンド・ジャパンでは、JICAの「帰国隊員等NGO活動支援制度」を通じ、青年海外協力隊の帰国隊員をインターンとして受け入れ、東日本大震災復興支援活動を担うスタッフに加わってもらっています。

1

2

3

1 保育園や幼稚園の先生対象に（仙台市）
2 キャンプリーダーやリーダー候補生を対象に（岩手県宮古市区界）
3 外国ママを対象としたプログラムで母国語の「被災後の子どものこころのケアの手引き」を手にする外国人ママたち（宮城県登米市）
4 完成した手引きの翻訳版

4 英語版　タガログ語版　中国（北京）語版　ハングル版

緊急・復興支援事業を記録したDVDが完成！

東日本大震災により被災した方々に向けた緊急・復興支援事業の活動を記録した映像（DVD版）、「We are with you! あなたはひとりじゃない!」（16分）が完成しました。
緊急支援物資の提供からこころのケアのワークショップまで幅広く行われる活動を報告しています。
DVD視聴をご希望の方には貸し出します。なお、ご返却いただく際の送料のみご負担ください。
お申込みは、電話、FAX、はがき、あるいはEメールで事務局までお願いします。

電話 03-3399-8123　FAX 03-3399-0730　E-mail childfund@childfund.or.jp

スリランカからアーユボーワン vol.10

アーユボーワン:シンハラ語で「こんにちは」

スリランカで人気のスポーツ

「好きなスポーツは？」スリランカの子どもたちにたずねると、「クリケット！」「エレ！」「ネットボール！」と元気な答えが返ってきます。スポンサーの皆様にお送りしている「成長記録」(Child Progress Report)の「好きなスポーツ」の欄の多くにも、これらが書かれています。いずれもチームで行う球技ですが、今回は日本であまりなじみのないエレとネットボールをご紹介します。

エレ

エレはスリランカの伝統的な球技。野球に似ていますが、野球より小さめのボールを竹の棒で打ちます。1チーム16名で、フィールドは野球場の約2倍。

「仲間と夢中で走り回るのは楽しい！」

ネットボール

ネットボールは女の子に人気があります。バスケットボールに似ていて、リングにボールが入ると得点になります。1チームは7名。国際試合などは体育館で行われますが、チャイルドたちはもっぱら青空の下で汗を流します。

ボールを動かすのはパスかシュートの時だけで、ドリブルはできない。また、ボールを3秒以上保持してはいけない。ロングパスや、ボールの奪い合いの攻防で盛り上がる。

チャイルド・ファンド・スリランカは、子どもたちの運動能力、リーダーシップ、社会性などを育むため、地域のスポーツ活動も支援しています。用具(ボール、ネットなど)の配布や、球技場の建設・整備もおこないます。地域のリーダー育成や、国のスポーツ省が主催する大会へのチャイルドの参加促進も行っています。

支援を受けるチャイルドの多くは地域のチームに属し、放課後集まってスポーツを楽しんでいます。

「余暇を楽しむ」ことは、子どもたちの権利※のひとつ。スポンサーのご支援によって、子どもたちは安心して勉強を続けるだけでなく、仲間と楽しく遊ぶことも保障されているのです。

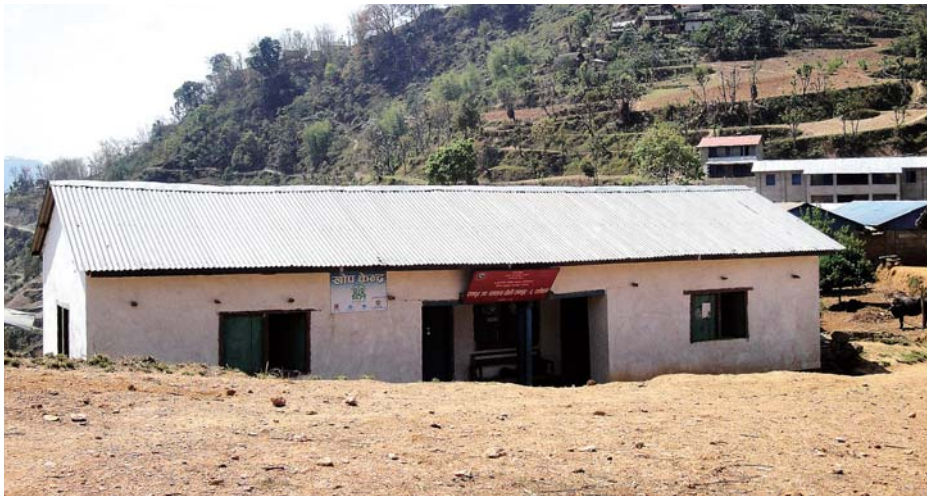
※子どもの権利条約の第31条で、子どもが休み、遊ぶ権利が保障されています。

ネパールからナマステ！ vol.6

ナマステ:ネパール語で「こんにちは」

チャイルドが病気やけがをしたらどうするの？

事業地の多くの人々は、病気やけがをするとその原因を悪霊の仕業と考え、まず地域のダミ・ジャンクリと呼ばれる呪術師のところに行き、悪霊払いをしてもらいます。しかし、手遅れになることもよくありました。実際にこの7月、ダミ・ジャンクリにみてもらったチャイルドの母親と妹の2名が、手遅れで死亡しました。母親は下半身の浮腫と高熱にうなされ、妹は肺炎でしたが、病院には行きませんでした。ネパール事務所は、この事態を重く捉え、ダミ・ジャンクリ向けに、その役割を認める一方、手に負えない病気や怪我の場合は、人々にサブ保健所※や郡病院に行くよう勧めてもらうための研修を実施する予定です。



※支援地域のランプール村のサブ保健所。すぐ隣にビメシュワール中学校と村役場があり、ランプール村の中心にある。向かって左側がメインの診察室で3名のスタッフ(保健所主任、母子保健担当・地域保健担当のワーカー各1名)が詰めている。正面が倉庫で医薬品が置いてある。右側が会議室。診察、けがの消毒、予防接種、妊産婦検診、基本的な20数種類の投薬などは無料。しかし骨折や重い病気となると、直ちに病院へ照会する。

現在、チャイルド・ファンド・ジャパンが支援しているプロジェクト

【フィリピン】
- 子どもが読書に親しむプロジェクト
- ▶パラワン少数民族生活改善プロジェクト
- 協同組合強化支援プロジェクト

【ネパール】
- ▶子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト

「パラワン少数民族生活改善プロジェクト」

～パラワン族の人々の生活・意識に見られる変化～

フィリピン

- 協力期間:2003年6月1日～2012年9月30日
- 支援対象:パラワン州ブルックスポイント町に住むパラワン族450世帯
- 協力団体:AMP-IPM※(Augustinian Missionaries of the Philippines Indigenous Peoples Mission)

※カトリック修道会であるフィリピン・アウグスチノ宣教会が行う社会事業部門。少数民族パラワン族の文化継承、保健・栄養改善・教育活動、環境保護活動を行う。

このプロジェクトは、2003年に始まり、幼児教育、成人教育、指導者育成の分野でさまざまな活動を積み重ねた結果、徐々にパラワン族の人々の生活、そして人々の意識が変化してきています。今回は、第3期2年目上半期(2010年10月～2011年3月)報告から、活動の進捗状況をお伝えします。

6歳未満を対象とする幼児教育では、就学前の基礎教育に加えて、民族の伝統文化を伝えるボランテイアが6名育成された結果、子どもたちは毎週、パラワンに古くから伝わる物語や詩を学ぶことができるようになりました。また、85名の子どもたちが補食プログラムに参加し、栄養状況に改善が見られ、母親たちは、自分たちで持ち寄った食材で栄養のある食事の調理法を学びました。また、マラリアの検診では60名以上の子どもたちが検査を受け、陽性の子どもたちは治療を受けました。

成人教育では、識字教室の運営、マラリア予防、栄養改善、生物多様性保全にかかる啓発活動が行われました。医療教育は劇に仕立てて行われ、劇を好むパラワンの人々にとって特に受け入れやすかったようです。生物多様性保全活動では、先祖代々受け継がれてきた土地に野生動物の聖域を確保できないかといった議論も出ています。また、住民の森林警備員11名の警備活動も継続されています。

指導者育成では新たに、伝統文化指導ボランティアやボランティア教員を対象とする研修が、教育省指導のもとに行われるなど、能力強化の充実が図られました。

マラリア感染検査を受ける男の子

「子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト」

ネパール

- 協力期間:2011年4月1日～2016年3月31日
- 支援対象:ラメチャップ郡の3カ村の公立16校(小学校と中学校)に通う生徒(約2,800人)と保護者、教員(103人)、学校運営委員会のメンバー(152人)、PTAのメンバー(151人)
- 協力団体:RBPW※ (Ramechhap Business & Professional Women)

※ネパールの山間部ラメチャップ郡を拠点とするNGO。女性と子どもの権利推進を目標に活動を行なう。

2010年度にラメチャップ郡で開始したこの事業は、2011年度から新たな5カ年事業としてネパール政府と事業合意書を交わして実施しています。新たな5カ年事業では、事業対象校を11校から16校に増やし、子どもにやさしい学校環境のもとでの生徒の学習能力の向上を目的としています。活動内容は、これまでの校舎の新築や修復、校庭の整備、教員の指導力強化、幼稚部の整備に加え、学校運営委員会※とPTAの組織強化、生徒会活動の普及、中退した子どもが学校に戻れるようにするための活動などが加わりました。4月中旬の新学期が始まってまもなく、16校の学校運営委員・PTA会長・校長などが、他の郡にある公立校をモデル校として見学しました。その後、いくつかの学校では、自費で他の教員をモデル校見学に派遣したり、生徒会を発足させたりしました。また、これまでは一部の学校運営委員と教師が作成していた学校改善計画案を、保護者や生徒も参加して見直し、彼らの声を取り入れた計画案に書き直しました。施設などの整備では、1校での新校庭整備と1校での校舎修復が完了し、現在2校の新校舎建設と1校の校舎修復が進んでいます。

校舎の修復工事

モデル校の見学

※保護者や校長、地域の有識者や村役場関係者から構成される委員会で、公立校の運営を行う責任を負っている。

インフォメーション　コーナー

ご報告　ご来場いただき、ありがとうございました!

10月1、2日に日比谷公園で開催された「グローバルフェスタJAPAN2011」に出展しました。ブースではフィリピン、ネパール、スリランカでの支援活動のパネル展示をしました。また、ボランティアとして大船渡市で活動した青山学院大学（チャイルド・ファンド・ジャパンと協働）の学生たちによる東日本大震災復興支援のミニ報告会を開催し、大勢の方々に来ていただきました。ご来場くださった皆様、ありがとうございました。

大震災の活動報告会の様子

熱心に展示を見てくださる方々

ご報告　チャリティコンサートが盛会のうちに終わりました

10月16日、青山学院大学ガウチャー記念礼拝堂にて「フィリピンの子どもたちを学校へ!ヴァイオリン・歌・ピアノとハンドベルによるチャリティコンサート」（主催:チャイルド・ファンド・ジャパン5周年記念チャリティコンサート実行委員会）が開催され、ご来場の皆様に素晴らしい演奏を楽しんでいただきました。このコンサートの収益金で10名の子どもたちが学校に通えるようになります。ご来場くださった皆様、演奏くださった皆様、司会をしてくださったジョン・カビラさん、お手伝いくださったボランティアの皆様、ありがとうございました。

演奏くださった皆さんへの花束贈呈

ご報告　「つながりぷろじぇくと チャリティ古本市2011夏!古本キャラバン」

支援者の皆様からも古本の提供をいただいた、チャリティ古本市（主催:チャリティ古本市2011実行委員会）が9月5日から参加企業各社を会場として5日間開かれました。今年は、約15,000冊の古本が集まりました。古本の売上金は、参加企業各社よりチャイルド・ファンド・ジャパンにご寄付いただきました。古本を送ってくださった方々、会場にいらしてくださった皆様にお礼を申しあげます。

参加企業:NTTPC（株）、キーコーヒー(株)、（株）永谷園、日本たばこ産業（株）、（株）日立ハイテクノロジーズ（50音順）

お知らせ　チャイルドたちの成長の記録とクリスマスカードをお届けします!

一年に一度、チャイルドたちの成長の様子を記した「成長の記録」をお届けしています。フィリピンのスポンサーの皆様には11月後半に、スリランカの皆様にはそれ以降にお届けします。ネパールのチャイルドたちの記録はすでにお送りしました。12月後半には、フィリピンとスリランカのチャイルドたち手作りのクリスマスカードも届きます。ネパール暦の新年は4月ですので、ネパールのチャイルドからの季節のカードのお届けは4月です。どうぞお楽しみに!

お願い　ご協力ください!たった3枚のハガキが1冊の本に変わります!

昨年に引き続き、「書き損じハガキ」でフィリピンの子どもたちに本を贈るキャンペーンを実施しています。
昨年10月から本年9月の間に、約256万円相当のハガキや未使用切手を送っていただき、子どもたちに本を届けることができました。ご協力いただいた皆様に厚くお礼を申しあげます。

このような本のセットが送られます

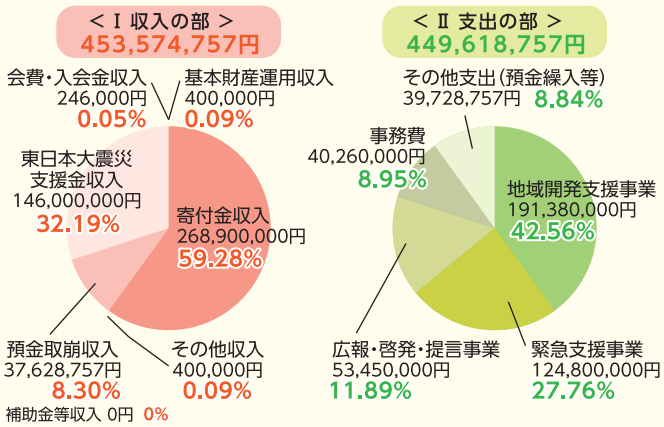
・年賀状などで書き損じたハガキや未使用切手がありましたら、どうぞお送りください。
　<送り先>　〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
　　チャイルド・ファンド・ジャパン　ハガキ係
・「書き損じハガキ」募集キャンペーンのチラシも用意しております。ご入り用の方は募金グループまでご連絡ください。（電話:03-3399-8123）

お知らせ　領収証の送付について

2011年にご寄付いただいた分の領収証を2012年1月中旬頃に発行いたします。（ご寄付ごとに領収証を送付している分を除きます。）この領収証は確定申告の際に所得税の寄付金控除に使用していただくことができます。なお、東京都にお住まいの支援者の皆さまからのご寄付は、住民税に対しても寄付金控除の対象となります。（詳しくは東京都主税局ホームページ http://www.tax.metro.tokyo.jp/ をご覧ください）

ご報告　2011年度予算の概要

2011年10月17日にチャイルド・ファンド・ジャパンの総会が開かれ、補正予算が承認されました。年度が始まる前に承認された今年度予算は東日本大震災支援にともない、大幅に変更になりました。東日本大震災の支援活動においてその収支を明確にするために年度末には特別会計として一般会計と分ける予定です。引き続き皆様のご支援を心からお願い申しあげます。



◇ 次期繰越収支差額……49,645,861円
◇ 前期繰越収支差額……45,689,861円
◇ 当期収支差額…… 3,956,000円

ChildFund Japan　**Vision Mission**

チャイルド・ファンド・ジャパンは ここに掲げるビジョン（目標）、ミッション（使命）に 基づいて活動します。

ビジョン（目標）
すべての子どもに 開かれた未来を約束する 国際社会の形成

ミッション（使命）
生かし生かされる 国際協力を通じて 子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

<チャイルド・ファンドだより SMILES（スマイルズ）> 2011年 11月発行
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長　深町正信（青山学院名誉院長）　事務局長　小林毅
TEL. 03-3399-8123　FAX. 03-3399-0730
E-mail:childfund@childfund.or.jp
URL:http://www.childfund.or.jp/

〈デザイン〉
モスデザイン研究所
〈印刷〉
有限会社東西印刷
PRINTED WITH SOYINK 大豆油インキを使用